

友好関係の発展へ

～友好交流都市協定を締結～

11月20日(火)、市内のホテルで登別市、東京都福生市、滋賀県守山市で構成する『新都市連絡協議会』と『友好交流都市協定調印式』が開かれました。

この協議会は、地方自治法において市となる要件が人口5万以上とされていたところを、人口3万以上で市となるよう国などに働きかけ、3万人市制実現に貢献し、昭和45年に市制施行した6市（登別市、福生市、守山市、新潟県豊栄市（現新潟市）、三重県久居市（現津市）、山口県新南陽市（現周南市））が、昭和55年に市制施行10周年を記念して設立した『新市制実現都市連絡協議会』を母体としています。平成8年に現在の『新都市連絡協議会』に名称を改め、平成13年に『友好交流都市協定』を結びましたが、市町村合併に伴い、3市が退会したため、新たに『友好交流都市協定』を締結しました。

協定書には、「いずれかの市域において災害が発生した場合に相互の応援体制をとるとともに、恒久的な友好関係の発展に努める」などの内容が盛り込まれています。

また、新都市連絡協議会では、市政の情報交換を隔年で行うことなどを決めました。



▲友好関係の発展を誓い握手する、左から福生市副市長、守山市長、登別市長

年越しは手打ちそばで

～年越しそば打ち体験～



12月1日(土)・2日(日)、文化伝承館（郷土資料館横）で『年越しそば打ち体験』（市主催）が行われ、2日間で33人の方が参加しました。

この体験は、郷土資料館ボランティアグループSLGが講師となり、そば打ちを指導。はじめに「そば打ちで最も大事なものは、そば粉と水を混ぜ合わせる水回しで、いかにダマを上手に作るかです」と上手に作る秘訣を説明しながら実演してみせました。

その後、参加者が講師の手助けを受けながら、そば打ちに挑戦していました。

参加者は、「水回しが難しかったです。出来上がりには満足していますので、今年の年越しそばは手打ちを家族に披露します」と話してくれました。

育った環境で生き方が変わる

～平成19年度登別市男女共同参画出前セミナー～

11月18日(日)、市民会館で『平成19年度登別市男女共同参画出前セミナー』（市、登別市男女共同参画社会づくり推進会議、北海道、(助)北海道女性協会共催）が行われ、65人が参加しました。

このセミナーは、札幌大谷大学短期大学部准教授の入江明美さんを講師に迎え、『あたりまえ』の変遷、そして『優しさ』の行方をテーマに開催。講演では、「夫が36歳で亡くなったこと。そのため自分が仕事をして生計を立て、子どもが家事を行った。そんな環境で育った子どもは、将来結婚する人は自分も家事ができるから男と対等に働く人を希望した」など、自分の家族の例を挙げながら「男として、女としてというより、人間として色々な生き方がある」と話していました。

参加した方たちは、ユーモラスな講演に熱心に耳を傾けていました。

